

広島県における今後の高等学校教育の在り方について 最終報告（概要）

I 本県を支える人材の育成と今後の高等学校教育の在り方について

1 検討に当たって

(1) 広島県の特徴など

広島県は、豊かな自然、西日本有数の産業集積地、全国的にも貴重な伝統文化の宝庫、国際都市としての潜在的な魅力を有している一方で、中山間地域や島嶼部における過疎化の進行などの課題を抱えている。

こうした状況下において、様々な課題に対応し、社会の持続的な発展に寄与する人材の育成が急務となっている。

(2) 若者、高校生の現状

現在の若者、高校生について、素直である、社会に貢献したい気持ちが強い、あるいは情報収集能力が高いなど多くの点で評価できる。

しかし、議論や競争が不得手、他者と協同して課題を解決するのが不得手、あるいは実現したい夢を持っていないなどの課題がある。

なお、高等学校教育の在り方の検討に当たっては、こうした高校生や若者の現状に加え、学校や家庭、地域についての課題を見ていくことが必要である。

2 本県を内外から支える人材

(1) 内側から支える人材

本県産業の発展を支える人材、県民の安心な暮らしを支える人材、豊かな地域づくりに貢献する人材など、「地域」で活躍する人材

(2) 外側から支える人材

グローバル化が進展する中で、主体的に考え行動する力を持ち、県外のみならず、国外において活躍する人材

3 生徒が高等学校で身に付けるべき力

高等学校においては、社会的に自立する上で求められる普遍的な力を卒業までに身に付けさせることが必要であるとともに、生徒一人一人が夢を実現し、グローバル化した社会で活躍できる力を身に付けることも重要である。

(1) 全ての高校生が身に付けるべき力

知・徳・体のバランスのとれた力（「生きる力」）

(2) 高校生が個々の状況に応じて（社会で活躍できるように）身に付けるべき力

生徒一人一人が夢を実現し、グローバル化した社会で活躍できる力

4 高等学校教育の目指す姿

高等学校教育においては、生徒が将来社会で自立して生活を送ることができるために必要な心身の強さや人間性を養うという観点と生徒の進路希望の実現を図るという観点が重要である。

いずれの観点においても、生徒に夢と学ぶ意欲を持たせ、学びを实践させることにより、成功体験を積み上げるとともに学ぶ意義に気づかせ、さらに学ぶ意欲を強めるという好循環を作り上げることが必要である。

Ⅱ 本県における今後の高等学校の在り方について

1 今後求められる高等学校

(1) 全ての高校生が身に付けるべき力（コア）を育成する学校

グローバル化の進展や知識基盤社会の到来など、激しく変化していく社会で活躍できる人材を育成するためには、全ての高等学校において、基礎的な学力、思考力、判断力、行動力及び自分以外の他者を受容し共生できる力はもとより、各々の職業で必要とされる基礎的な専門知識や技能などを身に付けさせる必要がある。

また、生徒に学ぶ目的や意義を自覚させるとともに、将来への目的意識を持たせ、将来の夢の実現に向け、粘り強く取り組む姿勢を育成することが重要である。

(2) 生徒の多様なニーズに対応した特色のある学校

理数系や文化・芸術、スポーツなどの能力を伸ばす、海外へ出て活躍する、あるいはこれから夢や目標を見つけるなど、生徒の多様なニーズに適切に対応するためには、家庭や地域、大学、企業関係者などとの連携も視野に入れて、各高等学校が特色ある教育を更に推進することが求められる。

このためには、各高等学校が生徒のどのような力を伸ばすのか、どのような生徒を育成するのかについて明確な目標を持ち、それを実現するための有効な取組を実践することが重要である。

2 求められる高等学校の方向性

(1) 各学科の在り方

ア 普通科

普通科においては、基礎的な教養をしっかりと学びつつ、コースや類型を設けて、科学技術、文化・芸術、スポーツなど特定の分野に特化して学ぶことができる高等学校や、普通科と専門学科が併設され、学科間で連携することにより、多様な学びを提供できる高等学校などについて、検討するべきである。

イ 専門学科

専門学科においては、専門分野の基礎的・基本的な知識、技術及び技能の定着を図る教育を行うことや、それぞれの専門分野だけでなく、他の専門学科との関連にも配慮し、幅広い知識、技術及び技能を身に付けさせる教育を行うことなどが重要である。

また、「ものづくり」を学ぶ学科においては、ものを生産製造する知識、技術及び技能を身に付けさせる教育に加え、売れる商品を開発する能力を育成するため、マーケティングに関する基礎的な知識と技術を身に付けさせることも重要である。

ウ 総合学科

総合学科においては、普通教科及び専門教科の多様な科目の中から生徒が主体的に履修したい科目を選択でき、生徒の多様な興味・関心、進路希望等に応じた学習を可能にするという特質を一層生かせるよう、今後もキャリア教育の充実を図るとともに、系列や設置科目の見直しなどを検討していく必要がある。

(2) 定時制課程・通信制課程

定時制課程及び通信制課程には、これらの課程で学ぶことにより、将来の生き方や在り方を見出し、進学や就職などを実現する生徒がいるなど、今日的にも大切な役割を果たしている。

こうした定時制課程及び通信制課程の特長を生かすためにも、様々な事情や背景を持ちながら定時制・通信制課程に在籍している生徒の可能性を引き出し、能力を伸ばす機能を一層充実させることが求められている。

現在の定時制課程の多くは、全日制課程の高等学校に定時制課程が1学年1学級規模で併置され、夜間部の設置が多いという状況になっており、こうした状況の改善を検討する必要がある。

また、定時制課程と通信制課程を併せ持った高等学校の設置を検討する必要がある。

(3) 中高一貫教育校

県立広島中・高等学校における成果を踏まえ、中山間地域も含め、県内の他の地域から併設型中高一貫教育校の設置を求める声がある。

また、中山間地域において連携型中高一貫教育を実施している学校が一定の成果をあげており、他の地域において、設置を求める動きがある。

これらのことを踏まえ、中高一貫教育校の新たな設置については、県内各地域の実情などを考慮しつつ、これまでの取組や成果を生かしながら、検討する必要がある。

なお、新たな中高一貫教育校の設置の検討に当たっては、次のことを考慮する必要がある。

- ・中高一貫教育の導入時に、国会の附帯決議において、受験エリート校化など、偏差値による学校間格差を助長することのないよう十分配慮することなどが盛り込まれた趣旨を尊重しなければならない。
- ・新たに併設型中高一貫教育校を設置する際には、既存の高等学校や中学校をベースにして設置することを検討する必要がある。
- ・中山間地域や島嶼部においては、地域の自然や伝統芸能・文化を生かした取組を実施するなど、進学実績のみを重視するのではなく、地域の特色を生かした併設型中高一貫教育校もあってもよい。

(4) その他

本県の抱える課題に対応した様々な人材（例えば、中山間地域における医療を支える医師や学校教育を支える質の高い教員など）を育成する観点から、今後の高等学校が果たすべき役割について検討していく必要がある。

その際、海外の大学への進学を目指す学校や職場体験を重視した学校の設置など、従来の高等学校、課程や学科の枠に捉われない高等学校の在り方についても、検討していく必要がある。

3 国・公・私立高等学校の役割

国・公・私立高等学校は、協力又は補完しあいながら、広島県全体の高等学校教育を推進していかなければならない。

また、併せて、本県の高等学校教育の在り方を考えるとき、国・公・私立高等学校は、補い合うとともに、同じ公教育を担うという立場から、互いに切磋琢磨し、広島県全体の教育水準の維持・向上に努めることが求められている。

なお、特色のある学校・学科の中には、生徒のニーズが低いために定員に満たない可能性のある学校・学科があるものの、本県の将来を見据えたときに、社会的なニーズが高いと考えられる学校・学科については、国立又は公立の高等学校において設置することを検討する必要がある。

4 県立高等学校の配置の方向性

(1) 学校配置の在り方

今後の県立高等学校の配置を考えるに当たっては、中山間地域・島嶼部と都市部など、地域によって異なる様々な状況を考慮し、県内全ての生徒が学びたいことを学ぶことができる環境を整えることが求められている。

また、普通科、専門学科及び総合学科の配置や、全日制課程、定時制課程及び通信制課程の配置を考えるに当たっては、生徒のニーズや高等学校卒業後の進路状況を踏まえ、全県的なバランスや各地域の産業の状況などにも配慮しながら、学校数や学級数の確保に努めなければならない。

(2) 学校規模の在り方

高等学校においては、生徒の希望する進学や就職に対応できるだけの選択幅のある教育課程が

編成できることや、教員の教科指導力向上のための自校内での日常的な研鑽や校外研修への参加が可能であることなどが求められるため、一定の学校規模を確保する必要がある。

ただし、学校規模の在り方については、中山間地域・島嶼部や都市部などの地域の状況や、学校の特徴、教育内容の違いなどによって異なることがあると考えられる。

(3) 全日制課程の県立高等学校

今後の県立高等学校の学校配置や学校規模の具体的な検討に当たっては、市町の区域や交通の利便性を考慮しつつ、県内をいくつかの区域に分けて検討することが有効であると考えられる。

また、今後の学校配置などを検討する場合には、それぞれ次のことについて留意すべきである。

ア 中山間地域・島嶼部

中山間地域・島嶼部の県立高等学校においては、中学校卒業生数の減少に伴い、今後も入学者が減少し、小規模化することが見込まれているものの、豊かな自然に囲まれた学習環境や少人数による指導などのメリットを生かしていくことができることや、様々な事情により地域の高校に進学するしか選択肢がない子どもたちがいることなどを踏まえ、学校の特徴づくりによる活性化を図るべきである。

また、特色ある学校づくりを推進するためには、地域の支援を得ながら、部活動や学校行事などによる学校の特徴づくりを進めるなど、地域との連携という観点が必要である。

一方で、人的資源が限られていることを考慮し、学校の統廃合などについても視野に入れながら、生徒の希望する進路の実現や、教員の自校内での日常的な研鑽や校外の研修への参加などによる資質・能力の向上を十分に図ることのできる学校規模を確保することが重要である。

なお、学校を統廃合する場合は、交通の利便性や周辺地域における生徒の受け入れ態勢など、地域の状況に配慮する必要がある。また、統合後の学校が、地域の中学生在が入学したいと感じるような魅力ある学校となるよう工夫する。

イ 都市部

都市部の高等学校は、公共交通機関の利便性が高く、広い範囲の地域から様々な学習ニーズを持った生徒が集まり、同じ区域内に県立高等学校のほか、市立や私立、国立の高等学校が複数設置されている。

また、都市部では、昭和 50 年代後半からの第 2 次ベビーブーム世代の高等学校進学による生徒急増に対応するため、県立や市立の高等学校が新設されたが、生徒減少に転じた後も、都市部の学校数がほとんど変わっていない状況にある。

今後、都市部においても、中学校卒業生数の減少が続くことが見込まれることから、市立や私立、国立の高等学校の配置状況や、交通の利便性なども考慮しながら、学校の統廃合も視野に入れて再編整備を検討する必要がある。

(4) 定時制課程・通信制課程の県立高等学校

現在、定時制課程及び通信制課程には、勤労青少年や、中学校時代に不登校傾向のあった生徒、高等学校を退学して再び高等学校で学び直そうとする生徒など、様々な事情や背景を持った生徒が入学している。また、年齢に関係なく学ぶことができる場としても重要な役割を果たしている。

そのため、定時制課程及び通信制課程の配置の在り方を検討する際には、県内いずれの地域においても、生徒がこれらの課程で学習することができるように配慮しなければならない。

また、都市部については、市立や私立の高等学校の配置状況や、交通の利便性なども考慮しながら、「県立高等学校再編整備基本計画」に掲げられている定時制課程と通信制課程を併せ持った学校の設置や、従来の課程（全日制課程、定時制課程、通信制課程）の枠を超えた新たな学校の設置などについても検討する必要がある。